

がんばる

Chubu

観光地域づくり編

十数年の地域の努力が結実！ 人気観光地へ変貌を遂げた城下町

昇龍道のモデルコース周辺で展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回のエリアは愛知県の犬山城下町。シャッター通りとなった中心市街地の再生や観光客を呼び込むプロジェクトの立ち上げなど、地域一体の努力により人気観光地へと変貌していく道のりを紹介する。



シャッター通りの商業エリアを江戸情緒豊かな城下町へ再生

インスタで話題の城下町

スマートフォンを使って写真を投稿するSNS「Instagram」に若い女性が夢中になっている。「嫌消費」と言われてきた若者が、こぞって写真映える飲食店や旅先に押し寄せ、経済にも大きな影響を与えつつある。そ



インスタを見て訪れた若者がさらに写真を投稿し、犬山城下町の存在が瞬く間に全国に広まった

のような中、愛知県犬山市にある国宝犬山城の城下町が今話題のスポットとして若者で溢れかえっている。どちらかと言えば年配客が多い観光地だったが、「インスタ映え」の影響で様相が一変したのだ。

城下町のメインストリートである本町通りは、今でこそ古民家が並ぶ江戸情緒豊かな街並みを形成しているが、実は30年程前にはシャッター通りと化していた。なぜシャッター通りとなってしまったのか。如何にして城下町が再生され、若者が押し寄せるまちに変貌したのか。十数年にわたる地域の努力の軌跡を追ってみた。

中心市街地の賑わいを取り戻すために

現在の城下町一帯は、かつてこの界隈一の商業エリアとして賑わいをみせていた。しかし、1988年に犬山駅東口前に大型ショッピングセンターの開業が決まり、城下町の小売店のほとんどがその中の専門店街に移動してしまっ

た。これは当時の大規模小売店舗法(2000年廃止)によるエリア内の商業面積を増やさないという規制に従ったものだが、城下町に残った店舗は1割となってしまった。

シャッター通り化は犬山だけに限らず、当時、全国的に駅前や幹線道路沿いに大型ショッピングセンターが進出し、中心市街地の衰退がはじまっていた。その対策として多くの地方都市は、中心市街地の道路を広げ、人と車の流れをつくり、そこに商業施設をつくれば再び活性化すると考えた。

犬山でも1994年に犬山城から南に伸びる本町通りとこれに直交する新町通りを幅16mに拡幅し、新しい城下町風の商業施設を中心としたまちづくりを推進する官民協働の組織が設立した。しかし、それによって

歴史的建造物が消えてしまうことを危惧した反対派組織も発足。1995年の市長選では道路拡幅の是非が争点の一つに取り上げられ、拡幅派の現職を破り、反対派が支持する石田芳弘市長が誕生した。

しかし、すでに国が認定し着手までした都市計画道路であったため、拡幅を見直すことに対し愛知県や建設省（現・国交省）は、「都市計画を覆すとは常軌を逸している、話にならない」と拒絶した。争いは長期に及んだが、石田市長2期目の2001年、ついに都市計画道路は計画変更され、古い街並みを生かした城下町再生への取り組みがはじまることとなった。

城下町の活性化を願い立ち上がったTMO法人

2003年、中心市街地活性化法（1998年制定）に基づいたTMO（Town Management Organization）として、犬山市と地元企業が「犬山まちづくり（株）」（以下、まちづくり会社）を設立した。犬山商工会議所の会頭、元犬山市の副市長と都市整備部長、地元企業の会長など、まちに精通した錚々たる顔ぶれが役員として集結し、城下町の活性化を目指して動き出した。

まちづくり会社では主に二つの事業に力を注いでいる。一つ目は、空き家・空き店舗の活用。まちづくり会社が城下町の風情を意識した改装を行い、市内外から



犬山まちづくり（株）の皆さん。赤いネクタイの男性が商工会議所の会頭も務める社長の日比野さん（76）

募った利用者にテナントとして入店してもらっている。初期投資の負担をまちづくり会社が肩代わりし、家賃に上乗せして7、8年かけてゆっくりと回収す



8号館の「珈琲ボタン」。癒しのひと時を過ごせる人気の古民家カフェ

る仕組みだ。1号館にはまちづくり会社の事務局、愛知北エフエム放送、雑貨店が入り、14号館まで着々と開業。現在15号館を開発中だが、入店希望者数は100を超える人気ぶりだ。入店審査では犬山への思い入れや、夢と計画を持っている点を重視している。「今、観光客が急増する犬山で一儲けしようと軽い気持ちで店を開く人が多いが、潰れていくところは少なくない。うちでは潰れた店もなければ、この地で子どもを産み、まちの拡大に貢献している夫婦もいる、それが自慢だ」とまちづくり会社の役員たちは口を揃えて言う。

二つ目は、城下町に人を集めるために「ビールまつり」「ドイツワインまつり」など様々なイベントを毎年開催している。当初はまちづくり会社で運営を担っていたが、2010年に一般市民を含め広く城下町に関わるメンバーで「犬山城下町まちづくり協会」を設立し、運営を移管。75名程のメンバーが



ビールまつりでは会場ごとに異なる銘柄を提供。4つの会場を制覇するのが楽しい参加者も多い

協力して地域を盛り上げている。イベントでは犬山の地ビールや姉妹都市のお酒など、普段なかなか飲めない銘柄が多く、回を重ねるごとにリピーターが増加している。2018年5月11日（金）から13日（日）には姉妹都市のカリフォルニア州デービス市との交流の一環で、「第1回犬山城下町カリフォルニアワインまつり」を開催する。「ナパバレーの美味しいワインを堪能しに、たくさんの方々にお越しいただきたい」とまちづくり会社の日比野良太郎社長は成功を願う。

「犬山キャンペーン」と「インスタ映え」で観光客が押し寄せるまちへ

名鉄と犬山が連携するプロジェクトが発足

まちづくり会社が城下町を整備する一方で、名古屋鉄道、犬山市観光協会、犬山市がタッグを組む「犬山キャンペーン」が2007年からはじまった。犬山城と城下町、周辺の名所旧跡のPRを目的に、地元の人々を巻き込み様々

な企画やイベントを考え、まち歩きを通して犬山の楽しみ方を提案している。

中でも犬山キャンペーン開始当初から人気なのが「串グルメ」。犬山では近くに流れる木曽川の恵みから豆腐屋が多く、明治時代から郷土料理として田楽が親しまれ

てきた。しかし田楽だけではインパクト不足ということで、新しい名物料理の開発が不可欠だった。そこで「串に刺さっていれば何でもOK」ということにし、伝統的なものから意表をつくものまで新たな串グルメが誕生した。



犬山キャンペーンの旗振り役を担う観光協会の後藤さん(38)

観光協会の後藤真司さんは、「はじめは観光客も少なく、お店の人の気持ちも萎えてしまい本当に苦しんだが、市による電線地中化やまちづくり会社の活動で城下町の整備が進み、5年くらい経つと観光客が増加した。犬山キャンペーンも周知され、良い方向に歯車が回りだした」と振り返る。今で

は常時40～50の串グルメが販売され、飲食以外にも含めると約150の店舗が犬山キャンペーンに協力している。

吉本芸人が曳く人力車で城下町に笑顔が溢れる

犬山キャンペーンをはじめると、後藤さんは犬山らしさを演出するため人力車を走らせたいと考えていた。しかし、車夫が見つからず困り果てていたところ、吉本興業の若手芸人が全国各地に移住し、笑いの力で地域を活性化する「あなたの街に“住みます”プロジェクト」の公募を見つけた。「人力車という日本一小さな劇場のお客様を相手に笑いの修行に励み、若手芸人のステップアップにつなげてほしい」と打診したところ、多数の応募の中から全国第一弾として選ばれた。



人力車の運行技術は浅草で、観光ガイドは地域の人々からしっかり研修を受けているので、満足度は保証付き

「お笑い人力車」として2011年から開始したところ、車夫を務める芸人にファンがつき、若い観光客が急増した。また、京都や浅草なら3,000円から5,000円する料金を、

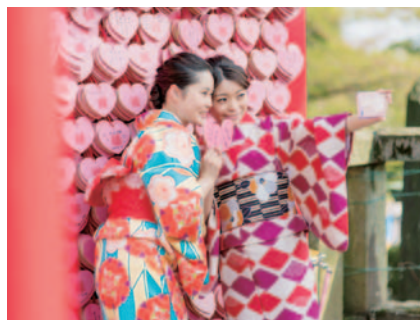
同じ乗車時間で1,000円に設定し、学生でも気軽に乗れるようにしたことで城下町の人気企画となっている。

インスタ映えがきっかけで人気観光地に変貌

まちづくり会社の活動や犬山キャンペーンなど、地域一体の努力が実りシャッター通りだった城下町に賑わ

いが戻った。犬山城の登閣者数をみても過去最低となった2003年の19万人台が2017年には過去最高の57万人を超えた。特にここ2年の伸び率が目を見張る。この記録を後押ししているのがInstagramだ。

2016年の夏ごろから、串グルメの「恋小町だんご」や



三光稲荷神社のハートの絵馬。正月バイトの学生たちのアイデアを採用したところ大ヒットにつながったと言う

三光稲荷神社のハートの絵馬がカワイイと話題になり、2017年の春にはインスタ用の写真撮影を目的に、女子大生や若いカップルが押し寄

せるようになった。インスタ映えを狙ったレンタル着物店の増加や飲食店によるピンク色やハート型など女子受けを意識した商品開発も話題となり、2017年はテレビ各局がこぞって城下町を放映した。その効果で若者以外や遠方からの観光客も増加し、週末はいつもお祭りのように人で溢れかえっている。

ただ、これまでは人を集めるためにヒットすれば何でもよかったが、これからは犬山らしさをいかに出していけるかが課題だ。この過渡期を乗り越え、観光客を飽きさせない仕掛けづくりができれば、魅力はさらに高まるだろう。2037年には、室町末期に織田信長の叔父・信康によって築城された日本最古の城郭の犬山城が500周年を迎える。全国から注目されるこの年に向け、城下町の関係者は今から計画を立て、実行していこうとしている。500周年のビッグイベントの成功に向け、どのように城下町が進化していくか楽しみでならない。



インスタ映えに欠かせない小道具「photo props」を用意し、集客増を図る店もある

文：企画部 櫻井 景子
取材協力：犬山まちづくり(株)、
(一社)犬山市観光協会
写真提供：犬山まちづくり(株)、
(一社)犬山市観光協会、
名古屋鉄道(株)



城下町のレトロ&キュートな 写真スポット 発見コース

思わず写真を撮りたくなるスポットをめぐり、
犬山の新しい魅力を発見しませんか。

② 香味茶寮壽俵屋 犬山井上邸

長〜い大根と記念撮影をする

レトロなつくりの店構えは、趣たっぷり！店先の長い大根と一緒に記念撮影はいかがでしょうか。醤油の香りが香ばしい焼きおにぎりを、



守口漬・奈良漬と共に串団子スタイルにした「醤油おこげ串」が評判。店内では粕漬けのサーモンをメインに小鉢やご飯をセットにした「壽俵屋ごはん」や地元産の茶葉を丁寧に石臼で挽いた抹茶なども味わえます。

徒歩
5分

④ 旧磯部家住宅

江戸時代の町屋を眺める



緩やかなふくらみのある「起り屋根」が特徴的な江戸時代の家屋。正面は2階建てで、裏は平屋の「パンコニ階」と呼ばれるつくりになっています。間口が狭く、奥行きのある敷地内には、中庭、裏座敷、土蔵などもあり、町衆の知恵が息づいています。

徒歩
2分

⑤ 茶処くらや

思わず恋してしまう！可愛い団子を食べる



休日になると店前には長い行列ができるお店。みんなのお目当てはSNSでも話題の「恋小町だんご」。思わず写真に残したくなるカラフルで可愛らしいだんごは見た目だけでなく、味も抜群です。

徒歩
10分

犬山駅

犬山遊園駅

徒歩
10分

① 三光稲荷神社

歴史ある神社でキュートな絵馬を発見する



国宝犬山城のふもとに位置する神社で、歴代の犬山城主も三光稲荷神社を守護神としてあがめていました。別名「倍返し神社」。ご神水で洗うとお金が増えて戻ってくると言われています。境内のハートの絵馬にも注目です。

③ vinculum leather

レザークラフト体験をする



築100年近い町家を改装した犬山革工房は、ハンドメイド革製品の販売と革小物の手づくり体験ができるお店。予約いらずで、観光ついでに短時間で楽しめるレザークラフト体験「簡単コース」では、キーホルダーやヘアアクセサリーなどの可愛い革小物をつくることができます。



協力：名古屋鉄道(株)